

令和 8 年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による児童のコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現にむけて～

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の勉強は好きだ」と回答した児童の割合が70.5%で全国平均を上回った。また、R7県独自の学力調査から同質問の割合は73.0%だった。

②R5英語教育実施状況調査の結果から、児童の英語による言語活動の割合は98.0%だった。

未だ改善が必要な点

①学校訪問から、言語活動において、教師の見取りが十分でなく、個の達成状況に応じた指導・支援が不十分な授業が見られる。

②R7県独自の学力調査から、昨年度と同様に、まよりのある英語を聞いて必要な情報を聞き取ることや、文字の読み方を聞いて書くことに課題が見られた。

2. 要因分析

①課題解決に向けて、児童が学習方法を主体的に選択できる活動が多く見られた。児童が自らの成長を実感できる場面が増え、成功体験の積み重ねにつながったことが、英語に対する好意度の向上を促す要因となったと考えられる。

②学校訪問や研修会を通して、県の学力向上に向けた授業づくりをもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての理解と実践が進んでいると考えられる。

①言語活動自体は設定されているものの、活動が形式化し、学習のねらいに迫る本質的な活動となっていないことが要因として考えられる。

②聞くことの指導において、文字と音を結び付ける指導が不十分であることが要因と考えられる。書くことの指導において、文字と音を結び付ける指導や四線上に正しく書く指導が不十分であることが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

○学力向上プログラム推進事業①②①②

(1)「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の実施
令和の日本型学校教育を踏まえた県の学力向上の重点「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現」の具現化のため、推進校を指定し、具体的な指導法や評価の在り方の研究・開発を行い、各学校における授業改善の取組を推進する。

(2) 大学教員派遣事業

学校における学習指導の改善、教員の授業力向上等を図るため、大学の教員を市町単位の学力向上研修会や学校の校内研修会等に派遣し、専門的な指導・助言を得る。

(3) 指導事例の作成と教員専用サイト

県独自の学力調査の分析結果をもとに、改善に向けた指導事例を記載し、学校訪問等の指導・助言に生かす。また、児童の学力の向上と確かな学力の育成を目指すために、大学教員による専門的な指導・助言を得て、活用力を図る問題を掲載する。

○各種研修の推進 (教員総合研修センター)①②①②

- ・指定研修、希望研修
- ・教科指導リーダーによる研修
- ・外部の専門機関による研修
- ・ALTや専科教員のための研修

○教員採用候補者選考試験において、英語免許所有者、英検・TOEFL iBT・TOEIC L&Rで一定の成績を有する者に対して加点を行う制度を継続し、その内容を大学等での採用試験説明会を通じて、周知する。①①

令和 8 年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成

～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現にむけて～

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：59.5%⇒R8：60%以上）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語教育実施状況調査において、CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加した。

(R6:52.2%⇒R7:59.5%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、原稿などの準備をすることなく、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動の割合に上昇が見られる。

(R5:70.5%⇒R6:76.0%)

未だ改善が必要な点

①R6全国学力・学習状況調査の教員の質問調査の結果から、言語活動を行った割合はどの項目も改善しているが、学校訪問から、言語活動のねらいや教師の見取りに課題が見られる。

②英語教育実施状況調査において、ICT機器の活用が十分でない。

・生徒の発話や発音などの録画・録音 ※月1回未満の割合 (R7:40.9%)

2. 要因分析

①学校訪問や地域ごとの研修会において、指導主事からの助言等によって、各教員がCAN-DOリストをもとに生徒の到達目標の達成状況を把握し、丁寧に活動の状況を見取することを徹底したことで、割合が増加したと考えられる。

②学校訪問や研修会への参加を通して、県の学力向上に向けた授業づくりをもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての理解と実践が進んでいると考えられる。

①言語活動において、生徒の様子を見取り、指導に生かす意識が教員に十分浸透していないことが要因と考えられる。

②デジタル教科書の活用は進んできている一方で、その他のICT機器やツールの活用は依然として十分とはいえない。その背景には、生徒自身による自己評価や教師による評価を行うための準備が整っていないこと、またICTを活用する目的や意義が十分に理解されていないことなどが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

○学力向上プログラム推進事業①②①②

（１）「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の実施
令和の日本型学校教育を踏まえた県の学力向上に向けた授業づくり『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現の具現化のため、推進校を指定し、具体的な指導法や評価の在り方の研究・開発を行い、各学校における授業改善の取組を推進する。

（２）大学教員派遣事業

学校における学習指導の改善、教員の授業力向上等を図るため、大学の教員を市町単位の学力向上研修会や学校の校内研修会等に派遣し、専門的な指導・助言を得る。

（３）教員専用サイト

生徒の学力の向上と確かな学力の育成を目指すために、大学教員による専門的な指導・助言を得て、活用力を図る問題を掲載する。

○AIの活用による英語教育強化事業②

県立学校をモデル校に設定し、AIを活用した「話すこと」のアウトプット能力向上のための個に応じた指導法を研究し、授業における言語活動を充実させるための取り組みを行う。また、モデル校を通して、AIを活用した授業実践の普及を図る。

○各種研修の推進（教員総合研修センター）①②①②

- ・指定研修、希望研修
- ・教科指導リーダーによる研修
- ・外部の専門機関による研修
- ・ALTや専科教員のための研修

令和 8 年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
R7 : A2以上 56.9%、B1以上 26.9% ⇒ 目標 : A2以上 60%、B1以上 30%
- 英語学習におけるAI活用の推進により生徒の言語活動の質の向上を目指す

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①求められる英語力
(CEFR B1 以上) を有する生徒の割合が上昇
B1 R5 23.7%
R6 22.9%
R7 26.9%
- ②英語学習においてAI活用に取り組む学校の増加

未だ改善が必要な点

- ①求められる英語力
(CEFR A2以上) を有する生徒の割合が低い
A2 R5 59.0%
R6 58.5%
R7 56.9%
- ②授業における、英語担当教師の英語使用の割合が低い
R5 24.8%
R6 38.7%
R7 35.1%

2. 要因分析

- ①②国から採択を受け、AIの活用による英語教育強化事業の実施により、モデル校 3 校を中心に、「話すこと」「書くこと」の 2 技能において、言語活動の改善意識が高まった。また、AIを活用することにより、個に応じた学習スタイルが促進され、生徒の学習意欲が高まったことも要因として考えられる。
- ①本県の英語教育充実事業（R3～R5実施）において、言語活動について推進校を中心に普及を図って以来、言語活動を中心とした授業デザインが浸透してきている。
- ①②本県の英語教育充実事業において、言語活動の質の向上が未だ課題として残っていることが要因として考えられる。また、授業の中で教師がロールモデルとして英語を使用する機会が未だに不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②
(1) 言語活動充実に向けた教師の意識啓発
学校訪問の際に実施する教科会で、公開授業の振り返りを行い、言語活動における課題（目的・場面・状況の設定、フィードバック方法、教師の英語使用）について、現状の確認や意見交換、助言等を行い、授業改善に繋げる。また、教育課程研究集会で、「指導と評価の一体化」をテーマとして協議等を行い、指導したことを評価する重要性について再確認を行う。
- (2) 教育課程研究集会における本県英語教育実施状況の共有
県立高校各校の英語教員 1 名が悉皆で参加する研究会で、英語教育実施状況調査の結果を活用して、本県の英語教育の現状と課題を共有する。また、各学校の英語教育の取組についてグループ等で協議する場を設定し、「指導と評価の一体化」の徹底に向けて授業改善に取り組む。
- ①②①
AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業の実施
昨年に引き続き、AIを活用して個別最適な学びを言語活動の充実に繋げる実証研究を継続する。今年度はモデル校を 6 校に拡大し、公開研究授業のほか、教育課程研究集会やモデル校の情報交換会を通して取組みの成果を発信し、県内全高等学校でAIを用いた指導実践についてさらなる普及を図る。また、「AI活用セミナー」を全県立高等学校悉皆で実施し、個に応じたAIを活用した言語活動から、最終的に人とのコミュニケーションに繋げ、ペアワーク等にどのように活かしていくことができるのか研究を進める。

石川県教育委員会

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	59	60	58.5	60	56.9	60	60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	23.7	30	22.9	30	26.9	30	30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	47.7	100	59.6	100		100	100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	84.4	100	96.5	100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100	94.4	100	93.8	100	97.2	100	100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	24.8	100	38.7	100	35.1	100	100	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	53.2	60	52.2	60	59.5	60	60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	86.1	100		100		100	100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	100	100		100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	52.4	70	51.6	70	70.3	70	70	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	85.7	100		100		100	100	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	